

# 事務事業評価シート

(平成 23 年度実施事業)

事務事業名	歴史的街並み保存活用事業			事業コード	2261
所属コード	132600	課等名	ブランド推進課	係名	
課長名	吉田春彦	担当者名	小原幹男	内線番号	3743
評価分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 公の施設 <input type="checkbox"/> 大規模公共事業 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理				

## 1 事務事業の基本情報

### (1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	活力ある産業の振興	コード	5
	施策	地域資源をいかした観光・物産の振興	コード	4
	基本事業	観光地づくりと観光客の誘致	コード	1
予算費目名	一般会計 7 款 1 項 3 目 歴史的街並み保存活用事業 (010-02)			
特記事項				
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度 <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度	開始年度	平成 17 年度	
根拠法令等				

### (2) 事務事業の概要

盛岡町家を中心とした歴史的街並み景観は、歴史的文化財であるとともに都市観光の推進のための大きな魅力となる要素を持っている。市民や観光客が盛岡の歴史文化と触れ合いながら楽しめる地域として積極的な活用を図ることができるように、歴史的街並みを保存活用するため、鉾屋町・大慈寺町界隈地域にある町家等の修景整備を行う。

### (3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

平成 18 年 1 月に策定した盛岡ブランド推進計画の中で、主要 4 プロジェクトの一つに「まちなみ景観づくり」を位置づけ、歴史的街並みの保存活用を図り、盛岡らしさがいかされた都市景観の創出を図り、文化性の高いまちとして歩いて楽しめる景観づくりを進めることとした。

### (4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

歴史的街並み整備補助金制度の周知を図っており、整備の推進が見込まれる。  
平成 20 年 11 月から 12 月にかけて実施した、歴史的な街並みの保存活用に向けた市民意向アンケートにおいて、71%が歴史的街並みを「積極的に活用すべき」23%が「ある程度保存活用すべき」と回答している。

## 2 事務事業の実施状況 (Do)

### (1) 対象（誰が、何が対象か）

地域住民、公開イベントの際この地域を訪れる人

(2) 対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	21年度 実績	22年度 実績	23年度 計画	23年度 実績	26年度 見込み
A 地域住民 (鉦屋町・大慈寺町・南大通二・南大通三)	世帯	1,164	1,174	1,180	1,155	1,155
B 公開イベントの際地域を訪れる人	人	20,000	20,000	5,000	4,500	25,000
C						

(3) 23年度に実施した主な活動・手順

盛岡まち並み塾と協働で町家開放事業を行なった。ただし、震災の影響により、最も来場者が多い旧暦の雛祭りは中止した。

盛岡町家の整備に係る補助金を交付する。

(4) 活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	21年度 実績	22年度 実績	23年度 計画	23年度 実績	26年度 目標値
A 町家等の開放イベント	回	8	8	6	6	8
B 町家等の修景整備	棟	4	5	4	0	4
C						

(5) 意図（対象をどのように変えるのか）

地域住民は、歴史や伝統を伝えるまちに住むことへの誇りをもって暮らし続けるようになること。

歴史的街並みを持つこの地域を訪れる人は、盛岡が古くからの城下町であることや水、先人、特産品に恵まれた住みよいまちであることを実感しまた訪れたいとなること。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	21年度 実績	22年度 実績	23年度 計画	23年度 実績	26年度 目標値
A この地区が好き、誇りに思う人々の割合	■上げる □下げる □維持	%	55	55	55	55	55
B 盛岡を住みよい町として訪れたいと思う人の割合	■上げる □下げる □維持	%	80	80	80	80	80
C	□上げる □下げる □維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画	23年度実績
事業費	①国	千円	2,500	2,000	1,900	400

	②県	千円	2,150	8,701	6,812	6,417
	③地方債	千円	0	0	0	0
	④一般財源	千円	4,500	3,500	3,400	400
	⑤その他( )	千円	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	9,150	14,201	12,112	7,217
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	800	800	800	800
	B 職員人件費 ⑥×4,000円	千円	3,200	3,200	3,200	3,200
計	トータルコスト A+B	千円	12,350	17,401	15,312	10,417
備考						

### 3 事務事業の評価 (See) . . . . .

#### (1) 必要性評価 (評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要)

##### ① 施策体系との整合性

歴史的街並みを整備することにより、盛岡のまちの魅力が増し、盛岡に訪れたいと思う人が増えると見込まれることから、総合計画の施策の目的に結びついている。

##### ② 市の関与の妥当性

歴史的街並み保存活用について市民運動が活発であり、行政のサポートが求められている。

##### ③ 対象の妥当性

整備計画区域以外にも町家が存在しており、対象地域について拡大を検討する余地がある。

##### ④ 廃止・休止の影響

当該地域の歴史的街並み保存活用については、市民の関心が高く、またメディアにも多く取り上げられ大いに注目を集めており、事業の廃止・休止は施策の成果に悪影響を及ぼす。

#### (2) 有効性評価 (成果の向上余地)

歴史的街並み整備事業補助金について周知し、早期に整備が進むように努める必要がある。

#### (3) 公平性評価 (評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要)

補助金の交付対象は限定されているが、歴史的街並み景観は市民共有の財産であり、また、街並み整備による来訪者の増加の影響は全市域に及ぶと考えられる。

盛岡町家等の整備については、補助金の額よりも住民の費用負担が大きい。

#### (4) 効率性評価

現在の事業費では年間2～4棟の整備が可能であるが、最終的には50棟の整備を目標としており、事業費を削減することはできない。

整備についての説明会やイベント等の実施が必要であり、人件費を削減することはできない。

## 4 事務事業の改革案 (Plan) . . . . .

### (1) 改革改善の方向性

盛岡町家の整備を早期に進めるため、説明会を多く実施し、街並み整備の必要性や補助制度の内容を周知し、整備に係る補助金の交付件数を増やす。

### (2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

景観や道路など当該地域の全体計画と一体で進める必要がある。

## 5 課長意見 . . . . .

### (1) 今後の方向性

- 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- 終了・廃止・休止

### (2) 全体総括・今後の改革改善の内容

町家の整備を早期に進めるため、説明会や個別相談などを実施し、街並み整備の必要性や補助制度の内容を周知し、整備に係る補助金の交付件数を増やす。